横田のメンバー、トップパフォーマーに選ばれる

Yokota Team Member Recognized As Top Performer

June 4, 2020

By Staff Sergeant Miquel Jordan
374th Airlift Wing Public Affairs

個人の熱心な働きが、一人の先任下士官の目に留まる。そして更に先任下士官全員の注目を集めると、その貢献はより高い評価へと引き上げられる。「ダイヤモンド・シャープ賞」は、そうした個人の仕事への顕著な献身さと熱意を映す賞である。

新型コロナウィルスの影響を受け、現在、世界各地で安全対策、自宅待機指示、国内の移動制限が行われている。日本では現在、来日する全ての地位協定のメンバーは最寄りの軍事施設で一定期間の行動制限を行わなくてはならない。

横田基地は来日する軍関係者の主な拠点となっており、目的地へ向かう前に、横田で14日間の行動制限を行う必要がある。嘉手納基地第18航空団のメンバーにとっては一つのハードルとなり、沖縄へ向かうには東京を経由するしかない。

その状況下で、第374軍支援中隊モータープールの責任者アンディ・リッチフィールド氏は、嘉手納基地の緊急作戦センターと連携し大きく貢献した。彼は入国に必要なあらゆる情報を収集し、2，000人以上の要員のための輸送と宿泊を確保し、また、それらの人々が横田に滞在中にサポートを受けられるよう、先任下士官らと協力した。

「サポートされる側の立場に立とうとしているだけです。私がもしその人の立場だったら、どうしてもらいたいだろうか、どんなことを知りたいだろうかと考え、それに応えようと努めている」とリッチフィールド氏は述べた。

このほど先任下士官委員会は、日本の新たな移動規則に基づいて軍関係者が来日することを確実にした、彼の尽力と沖縄基地第18空輸団との調整を行った貢献に対し、アンディ氏を「ダイヤモンド・シャープ賞」に選出した。

「リッチディールド氏は、リーダーシップがある。彼は、陸・海・空軍、契約業者、民間人などあらゆる人々の国内外の移動を手助けた」第374軍支援中隊先任下士官テレサ・タイラー曹長は述べた。

アンディ・リッチフィールド氏のおかげで、多くの人々が航空機で嘉手納基地に移動し、新たな軍生活を始めることができた。

空軍が逆境の中でも卓越した任務を発揮できる力は、彼のように、ひたむきに仕事に向き合う人々によって支えられている。